

## 1 概要

【日程・場所】2021年12月7日(火)、ハイブリッド形式(国内は対面、海外からはオンライン)で開催。

【主な出席者】

- 岸田総理大臣、林外務大臣、金子農水大臣、後藤厚労大臣
- チセケディ・コンゴ(民)大統領、ハシナ・バングラデシュ首相、ルアク・東ティモール首相、グテーレス国連事務総長、マルパス世銀総裁、テドロWHO事務局長、フォアUNICEF事務局長、チューFAO事務局長、ビル・ゲイツ・ゲイツ財団共同議長等



(写真提供：内閣広報室)

## 2 ハイレベルセッションの主な成果

- 約30か国の首脳級及び閣僚級のほか、国際機関の長や市民社会、企業、学术界の代表等が登壇。7日時点で、66か国及び19企業を含む**148のステークホルダーから300以上のコミットメント(政策・資金の意図表明)が提出され、約270億ドルの栄養関連の資金拠出が表明**されるなど、幅広い参加者から具体的な行動が示された。  
(参考)2013年のロンドン会合では計41.5億ドルの資金コミットメントを含む90のコミットメントを発表。
- **岸田総理**から、日本として今後3年間で**3000億円(約28億ドル)以上の栄養関連支援**を行うことを発表。国内においても、栄養と環境に配慮した食生活、バランスのとれた食、健康経営等を通じた栄養改善を行っていく旨表明。また、オミクロン株の発生も踏まえ、特に喫緊のワクチン需要がある**アフリカに対し、国際機関などと調整の上、1000万回分**を目処としたワクチン供与を発表。
- **林大臣**から、全ての関係者が一致団結してこの重要な課題に取り組む必要性とともに、栄養不良を改善するためには、コミットメントを表明したそれぞれが自らのコミットメントを着実に実行していく必要がある旨発言。
- **鈴木副大臣**から、セッション1及び2の議論をまとめつつ、栄養は健康と福祉の基礎であり、一人ひとりの可能性のみならず社会を支える基盤であるとして、コロナ禍にあっても誰一人取り残さない取組が重要である旨発言。
- 多くの出席者から、「**日本による会議の主催に感謝**」、「**コロナ禍の今が重要な時期である**」等、サミット開催を評価する発言あり。また、栄養サミットとして**初めて焦点を当てた「栄養不良の二重負荷」や、新型コロナによる栄養不良に対する影響**に言及あり。ブルキナファソ、コートジボワール、モザンビーク、ベナン等から具体的な数値目標とともに自国の栄養問題を改善するためのコミットメントが発表され、EU、豪州、カナダ、オランダ、アイルランド、米国、ドイツ等のドナー国からは具体的な資金コミットメントが発表された。